

第10回 教育課程編成委員会（書面による開催） 議事録

〔日 時〕 2020年7月

2020年7月2日（木）に開催を予定しておりました第10回 教育課程編成委員会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面開催といたしました。

- 2020年7月3日（金）書面による報告
- 2020年8月10日（月）質問期限
- 2020年8月27日（木）書面による回答

[委員]

厚木医師会会長、厚木病院協会副会長、県看護協会県央支部長、実習病院看護部門代表 2名、行政代表、学識経験者

学校長、副学校長、看護第一学科長、看護第二学科長、学校総務課長

1 議事

- (1) 2019年度 カリキュラム評価
- (2) 2019年度 卒業時の看護教育の技術に関する到達度評価について
- (3) 2020年度 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う教育方法の変更

○ 配布資料

資料1 2019年度 カリキュラム評価 考察と課題

資料2 2019年度 卒業時の看護教育の技術に関する到達度評価

資料3 2020年度 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師養成所の教育方法の変更に係る対応の報告

資料4 <厚生労働省通知文書>学事日程等の取扱い及び遠隔授業の活用に係る Q&A 等の送付について

2 報告結果

外部委員2名より4点についての質問があり、以下の通り書面で回答いたしました。

質問1) オンライン授業の難しさや課題などあれば教えてください。

回 答)

当校のオンライン授業は、「ZOOM」というオンライン会議システムを使用し、リアルタイムのライブ配信で実施しています。

オンライン授業に対する学生の意見は、「1日中ブルーライト画面を見ているので目が疲れる」「電波の状況が不安定になった時に音声聞き取れず授業内容が分からなくなる」な

ど、周辺機器や環境への課題があげられました。対応として、本来 90 分の授業時間を長くとも 60 分に調整し、残りの 30 分は予習、復習にあてるよう配慮しました。また、電波の状態が不安定な環境にある学生には、学内の情報科学室にあるパソコンを使用できるよう調整し対応しています。

外部講師からは、「ZOOM の基本的操作、活用の仕方が分からない」という意見が最も多く、教員が機器操作のサポートを行うことで解決を図りました。教員からは「学生の反応が分かりづらい」「グループワークが効果的に行えない」等の課題があがっています。対話的で、学生が主体的に参加できるオンライン授業の実施に向けて勉強会を開き、教員も学習中です。

看護技術は、オンデマンド配信でいつでも学生が視聴できるようにし、数少ない対面授業における技術演習場面で、その教育効果を実感しているところです。

質問 2) 国家試験への対策など、授業での工夫があれば御教えてください。

回 答)

3 年生はコロナ禍の影響で、登校日、実習日が学生個々で異なり、クラス単位で国家試験対策を実施することができていません。クラスを分割して、別日に模擬試験の実施等を行っています。

臨地実習が学内実習へ変更となった時間数も多くありますが、各看護学の国家試験対策に繋がられるような事例の提示を工夫しています。

国家試験対策もオンラインシステムを活用し、「ZOOM」にあるアンケート機能を活用し、一問一答を行うことで知識の確認、共有を行っています。

1.2 年生については学習習慣をつけるため、曜日を決めてオンライン授業の中で国家試験対策を実施しています。授業の中でも早い段階から国家試験問題に触れてもらっています。

質問 3) 臨地実習の不足を補うために学内での演習をされていると伺っておりますが、具体的にどのような内容の演習を実践しているのでしょうか。

質問 4) 演習による学習効果についてどのような学生の反応がみられるのか、また、その評価についての考察などありましたら教えていただきたいです。

回 答)

質問 3、4 について併せて回答いたします。

学内実習で行う演習では、各看護学の対象の特徴を捉えられる事例を学生に提示しています。また、昨年の 3 年生が受け持った対象の経過やデータを参考に、よりリアルなペーパーペーシェントで看護過程が展開できるよう工夫しています。視覚教材を積極的に取り入れ、イメージ化の推奨を行っています。看護計画の実施は、模擬患者への提供とロールプレイにとどまりますが、納得いくまで繰り返し技術を実践できることは学生にとってのメリットであると感じています。看護技術は、バイタルサイン測定、移乗・移動、全身清

拭や更衣、排泄ケア、陰部洗浄、歩行介助等を行っています。その他、血糖測定とインシュリン注射、吸引・吸入、経管栄養法、酸素療法、点滴準備や点滴管理等を必修で演習しています。

演習による学習効果は、特にペーパーペーシェントの看護過程の展開の学習が活かされていると感じています。臨地実習の際に、受け持ち当初から退院後の生活に視点を置き、意図的な情報収集を行う、リハビリテーション看護では心臓リハについて考えられた学生もいました。

学内の演習に対する学生の反応は、「じっくりと落ち着いて振り返る時間が持てる」「質問がたくさんできてイメージがつきやすい」「深く考えることができた」等の意見が聞かれています。学生同士、教員からの助言から意味づけが強化されたり、ロールプレイを通して、互いのフィードバックを今まで以上に重ねることができた印象です。

学内で演習した内容が、実際はどのように対象に活かすことができるのか、学生は積極的に考え、実践につなげることができ、達成感を感じていました。学内実習を効果的に計画することで、主体的な深い学びにつながったと評価しています。

以上